



表紙のことは

子どもたちの夏休みを利用して、山梨公民館で「子ども手話教室(全5回)」が行われました。

小学2～6年生14人が参加して、手話で自分の名前を伝えたり、自己紹介したりして手話を学習。講師から「手話は指だけでなく、口や表情も大切です」と教わると、手と口を動かしながら、真剣に手話を覚えていました。

市民の動き

人口 / 84,545人 (前月比+154人)

(外国人登録者3,550人含む)

男性 / 42,628人 (前月比+100人)

女性 / 41,917人 (前月比+54人)

世帯数 / 29,068世帯(前月比+80世帯)

平成18年8月1日現在

広報

ふくろい



袋井市の市章

2006年(平成18年)9月1日発行 第35号

編集・発行 / 袋井市役所総務部秘書広報課広報広聴係
〒437-8666

静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1
TEL 0538-43-2111(代表)

【ホームページ】

<http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/>

【携帯サイト】

<http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/i/>

【Eメール】

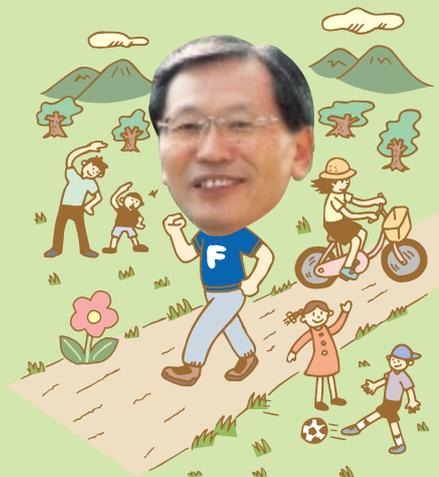
hisyo@city.fukuroi.shizuoka.jp

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています

原田市長の

さんぽみち

散歩道



久しぶりに映画を見に行った。テレビの映画番組はよく見るが、映画館まで行くのは、今では年1、2回しかない。

小学生のころには、授業で「映画教室」があり、先生に引率されて、袋井東小学校から東通りにあつた袋井座まで、クラス全員で田んぼの中を歩いて見に行くのが楽しみだった。

夏には、青年団の人たちが校庭に白い布を張って、「映画の夕べ」を開催し、いっぱい飛んでくる蚊をうちわで払いながら、ござに座って見た。

テレビの普及に伴って、映画産業が次第に衰退し、最盛期には、袋井・山梨で四つもあつた映画館も惜しまれつつ姿を消した。テレビ

映画「日本沈没」

でも十分感動を得られるが、映画館には大勢の人がいて、大画面に加え音響効果も優れ、暗いので集中力も高まり、スタジアムでスポーツを応援したり、劇場でショーを見るのと同じような興奮も得られる。

「日本沈没」は、33年前の小松左京のベストセラー小説をもとに、その後の阪神・淡路大震災などを加えて作られている。大規模災害時の危機管理体制のあり方について参考になった。

また、「今、自分にはやらなければ

ならない事がある」と、我が身を犠牲にして、日本を救った若い海洋学者の生き方に感動した。

東海地震が予測されてから30年が過ぎた。最新でしかも最大規模の予知体制を配しているが、必ず予知できるとは限らないので、普段からの用心と防災訓練が欠かせない。

9月1日は防災の日。訓練では、市民の皆さんにそれぞれ役割を受け持つて参加し、実際に役立つ、実のある訓練を行っていただいたいと思います。

加えて、我が家の地震対策について「備えあれば憂いなし」の心掛けで、家族そろって話し合ってください。